

団体名・グループ名

あんず保育園ホタルレンジャー  
千曲市立あんず保育園

審査委員の評価のポイント

保育園児が、ホタルの観賞から飼育、放流、ホタル川の清掃活動など、年齢に応じて活動している点及び、「生き物いっぱい教室」を通じ、地域の方と交流を深めている点が評価された。幼児期から環境教育に取り組み、今後も継続されていくことが期待された。

活動の場所 保育園園舎の裏を流れる用水路「ほたる川」、 近くの田んぼの用水路	活動したこどもの人数 70名
	活動したこどもの学年 1歳児から6歳児
活動継続年数 4年	主な受賞歴 平成20年度 ホタルレンジャー奨励賞

活動グループ（学校・団体）の紹介、活動頻度

創立41年の市立保育園で、園児は70名、みんなの名前がわかるような小さな保育園です。通園してくる地域も、近くの限られた地域なので、お家の方たちもホタルレンジャーの活動を応援してくれています。

ほたるが飛ぶ用水路は園舎のすぐ裏にあるので、いつでも観察したり、清掃したりすることができます。

餌となるカワニナも近くの農業用水路に採りに行けるので、小さな園児でも無理なく活動を行うことができ、ホタルレンジャーの活動を続けていくにはとてもよい環境と思っています。

ほたるだけではなく、身近にいる小さな生き物にも興味を持ち、自然とかかわりながらの活動を年間通して行っています。

活動の概要（活動の経緯も含めてご記入下さい）

年長児になると園長先生からホタルレンジャーに任命されます。小さいときに大きい年長さんの活動を見ているので、みんな期待して張り切って取り組みます。

4月 ほたる川の清掃、ゴミ拾い

4月12日 飼育していた幼虫の放流（今年度は150匹）

5月 川の観察やゴミ拾い、周りの草刈りをしたり、絵本や図鑑でほたるの生態を知る。

6月22日 夜のホタル観賞会 7時から8時まで お家の方と一緒に見たり、触れたりする。

ほたるを捕まえて、水槽で観察、産卵させ、霧吹きで水分を補給しながら孵化させる。幼虫を水槽に移し飼育を始める。カワニナ捕りを定期的に行う。

7月～9月 近くの田んぼの用水路で、生き物いっぱい教室に参加する。教えてくださる近所の先生に、生き物の名前や捕まえ方を教えていただく。沢ガニ、どじょう、メダカ、ザリガニ、蜘蛛、トンボを捕まえたり観察する。園にも持ち帰り、飼育観察をする。

8月～12月 ほたるの幼虫を飼育している水槽の水換えや清掃をする。

ほたる川の草刈りをする。

団体名・グループ名

あんず保育園ホタルレンジャー

活動の場所（様子や環境など）

保育園の裏を流れる「ほたる川」

近くの田んぼの用水路

タイトル

わたしたちのまわりには、小さいきものがいっぱいいるね。

活動を始めたきっかけ（興味を持ったことなど）

前の年長さんがやっていたホタルレンジャーに、ほくたちも、なりたくて始めました。

去年のほたるの観察会にも来て、ホタルが飛ぶところを見たので、今年もホタルが飛ぶといいなと思いました。

どうして光るのか、不思議なので見たいと思いました。

ホタルの他にも、どんな生き物がいるか知りたくなりました。

活動の目標（やってみたいと思ったことなど）

「あんず保育園の庭に蛍が飛ぶといいな」

保育士の願い

「ほたるの世話をしたり、観察をすることで、自然や自分のまわりの環境に興味関心をもち、大人になったときに、地域の自然を大切にできる人になってほしい。」

◆ この活動レポート用紙は、活動をした子どもたちが中心に記入してください。

活動の内容や調べたこと、写真やイラスト（自由記入シート）

あんず保育園ホタルレンジャー



ほたる川の草取りや掃除をしました。  
 風で飛んできたビニール袋やごみが川にひっかかっています。  
 ほたるが住めるように、川をきれいにしました。カワニナがいたので、ホタルのえさは大丈夫そうでした。



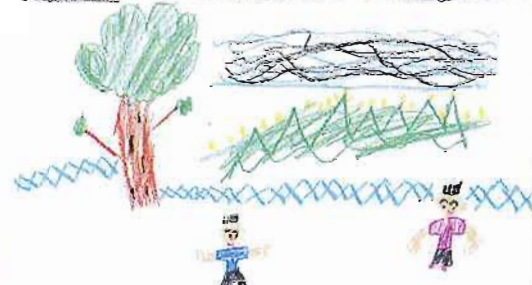
4月12日  
 ほたるの幼虫を放流しました。幼虫は保育園の水槽で去年から飼っていたものです。ダンゴムシみたいな形で、柔らかい幼虫でした。かわいい幼虫をそっと手にのせて川に放しました。なかなか離れない幼虫がとてもかわいかったです。はやくほたるになって飛んでほしいと思いました。

6月22日

ほたるが飛びはじめたので、お家の人と一緒に見に来ました。先生が言ったみたいに、光って飛んでいました。飛ばないで、草のところに

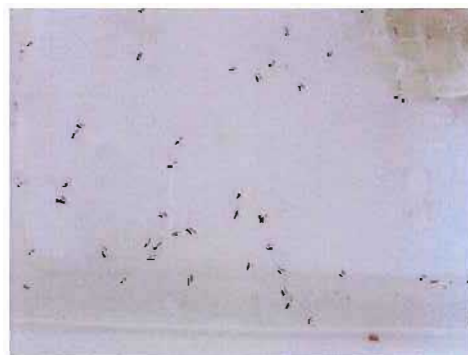


いるのは、メスで、飛んでいるのが雄だと教えてもらいました。みんなで、「ほーほーほーたるこい」の歌を、いっぱい歌いました。そしたら本当に飛び立ったので、拍手をしました。草のところにいるメスは、先生が捕まえてきてみんなで見ました。ほたるは、飛ぶようになってから1週間ぐらいしか生きていないと先生が教えてくれました。それしか生きられないのはとてもかわいそうだと思います。その間は水しか飲まないことも知りました。保育園の「ほたる川」でほたるが生まれてくれてとてもうれしかったです。



捕まえたほたるが、卵を産みました。  
 卵がかえって、ホタルの幼虫になってくれるのが楽しみです。  
 卵がかえたので、先生に見せてもらいました。  
 とっても小さくてびっくりしました。こんなに小さくて、大丈夫かな？  
 水槽に入れて、飼育しています。

カワニナを捕まえてきては幼虫のいる水槽に入れてあります。  
 大きくなるのを楽しみにしています。





## 生き物いっぱい教室

近くの田んぼに、「生き物いっぱい田んぼ」と看板が出ているところがあって「なんだろう」と不思議に思っていました。

その方たちに声をかけると、わたしたちに生き物いっぱい教室を開いてくれることになりました。さっそくみんなで出かけて行っていろいろ教えてもらいました。



生き物いっぱい教室では、用水路の中の小さな魚や、カニを手で捕まえさせてもらい、みんなで見たり触ったりしました。ドジョウはとても速くて、なかなかつかまらず、苦労しました。かわいいメダカも沢山いました。びっくりしたのは小さなシジミ貝です。「生まれたばかりかな？」と生き物いっぱいの先生が言っていました。心臓が透けて見えていました。貝の心臓がドキドキしているのが見えてとてもびっくりしました。

他にも、小さな生き物をいっぱい見ました。



色々なお話が聞けて、とっても楽しくて、みんな生き物いっぱい教室が大好きです。

捕まえた小さな生き物は、保育園に持って帰って水槽で飼ってみました。でも、小さな水槽ではかわいそうなので、少し飼ってからもといた川に返してあげました。



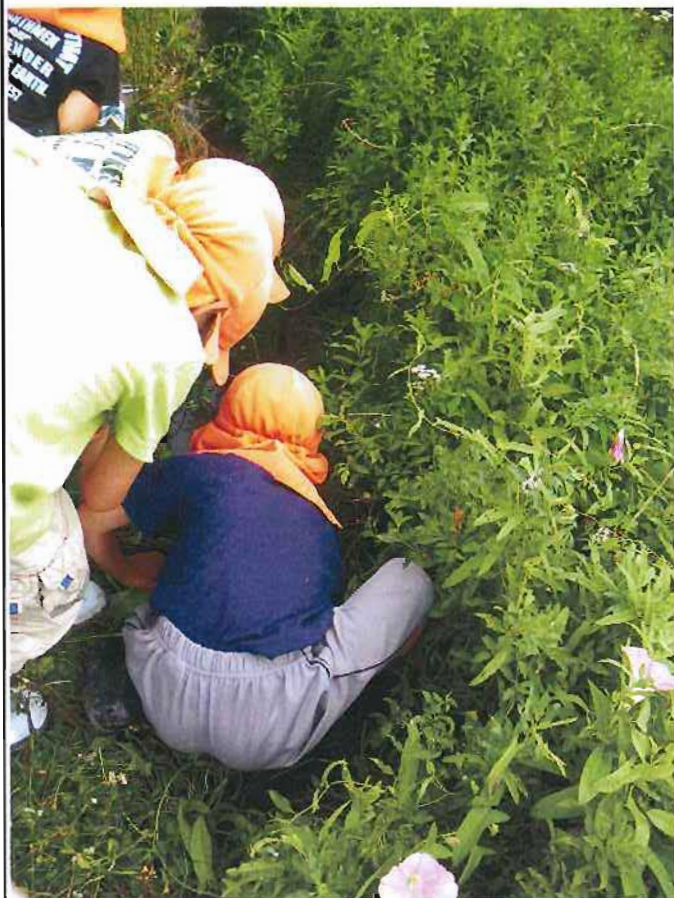
赤いしょうりょうバツタも見つけました。

農業をあまり使わないと、小さな生き物にとっても優しいのだそうです。

小さな生き物がこれからもいっぱいいるといいなと思いました。

田んぼや川を壊さないように、気をつけながらつかまえました。

生き物いっぱいの先生たちは、私たちが、つかまえるのが上手になったと言いました。



生き物が大好きになった私たちは、秋に、「生き物いっぱいミュージアム」を作ってみんなでごっこ遊びをしました。年長さんは自分たちが生き物になり、イルカと人魚のショーを開きました。魚になった感じでいっぱい楽しみました。



◆この活動レポート用紙は、活動をした子どもたちが中心に記入してください。

活動で工夫したこと、困ったこと

- ホタルの幼虫は水槽にいるけれど、いつも砂利の中にもぐっているので、見るができなくて残念だ。
- ほたる川のまわりの草刈りは 羽化や産卵を避け、どんな時期にどのように草が茂っているのがよいのか迷いながら行った。自然のままの姿では、子どもたちが観察することができず、また園のすぐ裏にあるので運動会などの行事にあたり草を茂らせておくこともできない。ホタルに適した環境作りに悩みました。
- ホタルの観察会には、皆さん大勢来ていただいたが、夜なので安全に気を配った。また、小学生も集まるので、近所のうちに迷惑がかからないよう 大騒ぎさせないようにしました。
- 生き物いっぱい教室では、暑い夏の戸外なので、水分補給や、日よけに気を使った。色々な生き物を触るので、その後の手洗いや 刺されたりかまれたりしないよう気を付けました。
- 小さな生き物は保育園の水槽で飼育し、田んぼに行かれない小さいお友達にも見れるようにしました。水槽で飼育していると、近くでよく見ることができ、子どもたちの興味はどんどん広がりました。
- ホタルの観察会をして改めて、夜が明るいと感じました。街灯や自動販売機の灯りがとても明るく感じました。近所の方に頼んで、観察をしている間だけ、自動販売機に暗幕をかぶせさせてもらいました。

活動で気づいたこと、感じたことやおもしろかったこと

- ほたるが飛ぶのはとてもきれいだった。
- お母さんやお兄ちゃんと一緒に見れてうれしかった。
- 生き物いっぱい教室で、「蜘蛛は小さい虫を食べてくれるので、田んぼにはいい虫です。」と教えてもらったが、やっぱり怖くて触れない。
- ザリガニは「田んぼの畦を壊すので、嫌われ者です。」と教えてもらったが、ほくはザリガニがかっこいいと思う。
- ほたるの幼虫はカワニナを食べるので、みんなでもいつもカワニナを捕まえているけど、食べられてしまうカワニナも可哀そうだと思う。水槽にくっついているカワニナはかわいい。
- 生き物いっぱい教室ではいろいろな生き物を触れて楽しかった。みんな速くて捕まえるのはたいへんだった。
- ホタルがどこかに飛んで行ってしまわず、保育園の庭にずっといてほしいと思った。でも、1週間で死んでしまうのはかわいそうなので、好きなところに飛んでいってほしいと思う。



活動からわかった課題

- カワニナをどうやって増やしていったらよいか、餌を用意するのができなくならないようにしたい。
- 幼虫を水槽で飼育しているが、気候の変化で水温が上がってしまい、園舎内で自然の状態を維持することが難しくなっています。ホタルやカワニナにとってのよい環境を保つことが保育園の課題となっています。

自分たち、子どもホタルレンジャーにできること

- ホタル川のお掃除をしてきれいにします。
- 小さな生き物を大事にします。

大人の人と一緒に、改善していきたいこと

- ホタルがもっとたくさん飛ぶようにしたい。
- 生き物がいっぱいいる川を増やしたい。



「地域の水環境調べ・テーマ活動」(テーマを選択して記入)

水中の生きものを調べてみよう！

テーマ活動の内容・結果

私たちは、生き物いっぱい教室で、いろいろな生き物を教えてもらいました。生き物いっぱい教室は、農薬を使わない田んぼの川だったけれど、他の田んぼの川にも、いろいろな生き物はあるのだろうか？みんなで見てみることにしました。近くの川に行ってみると、ザリガニや、小さなお魚がいっぱいいました。生き物いっぱいの川と違うところは、草が生えていないことです。水の中に、ゆらゆらする草があまりなく、お魚は、私たちの声や足音で、橋の下に隠れます。ザリガニは隠れるところがなくて、よく見えます。生き物いっぱい教室の川は、草がゆらゆらしていて、下には泥があるので、網をすくうと、何かが入っていました。他の川は、見えるけれど、つかまえることができません。

でも、小さいドジョウが泳いでいて、見ているのはとても楽しかったです。

見つけられた水中の生き物

サワガニ カワナナ どじょう めだか  
ザリガニ しじみ モノアライガイ ヤゴ





### テーマ活動からわかったこと・考えたこと

保育園に捕まえてきて飼っているどじょうやメダカは、隠れるのが大好きです。水槽の中に、川からとってきた水草を入れてあげると、喜んでいきます。水の中でも、草が大切なのだと思います。「モノアライガイ」という貝は藻が大好きで、いっぱい食べるのですが、水槽の中の藻がすぐになくなってしまいますので、川に還しました。保育園で飼うときは、餌の勉強もしないといけないと思いました。

メダカが喜ぶ水草が、いっぱいあるといいなと思いました。



また、川に行って小さな生き物を見つけたいと思いました。それから、どこの川にも生き物がたくさんいるといいなと思いました。

捕まえるのが難しく、名前を調べたくても、できません。ドジョウは、速いので先生しか捕まえられませんでした。どんな名前のお魚なのか知りたいと思いました。